

10-1 格子國	達1P							
	25 (kN) 	50	100		250	300 350	400 (mm)	
	-15		荷重	重一変位関係	 系			
		降伏耐力 Py	Pmax × 2/3	終局耐力 Pu·(0.2/Ds)	特定変位 1/120rad (23.75mm)	1/15rad (190mm)時 耐力	最大耐力	最大耐力時 変位
⑩−1 格	子壁1P	7.6	9.7	3.9	3.3	14.5	19.6	407mm
		*構造評価	を1/15(190m)	m)までとした				
破壊状況					-			
1 / 450	引き				押し			
1/300								
1/200								
1/150								
1/100								
1/75								
1/50								
1/30	西柱縦受材 西柱縦受材 中柱縦受材	-土台 浮き 柱 釘めり 土台 めり	き上がり(写真)込み)込み(写真5	〔5参照〕 5参照〕	中柱縦受材西柱縦受材	t-土台 浮き t-土台 めり	き上がり 込み	
1/7最終	260mm 格- 350mm 格- 370mm 下	子縦材に割 子横材10段 受材割れ入	れ入る(写真 目折れ(写真 る(写真6参	4参照) 〔4参照〕 照〕				
傾向	変形がある。 強度に対し	程度進んでて初期剛性	から格子材3 が低い	えんのめり込	みが発生し	ているので、		

⑩-1 格子壁1P



写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 試験終了時 1/7rad(407mm)



写真5 試験終了時 1/7rad(407mm)



写真4 試験終了時 1/7rad(407mm)









		柱(西)		柱(東) (加力側)	梁	土台
	比重	0.36		0.39	0.41	0.52
	含水率 %	9.50		9.33	7.67	13.67
		縦格子1	縦格子2	縦格子3	\nearrow	
	比重	0.37	0.44	0.42		
⑩−2−1 格 子壁2P	含水率 %	16.17	10.67	25.00		
		横格子1	横格子2	横格子3		
	比重	0.30	0.49	0.00		
	ᆔᆂ	0.39	0.42	0.38		
	<u>お</u> 含水率 %	19.17	14.50	0.38 16.33		
	<u>力量</u> 含水率 %	0.39 19.17 受材上	0.42 14.50 受材下	0.38 16.33 受材西	受材東	
	之水率 % 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	0.39 19.17 受材上 0.43	0.42 14.50 受材下 0.41	0.38 16.33 受材西 0.34	受材東 0.38	\mathbb{N}

※含水率は3箇所を測定した平均を示す

※縦格子、横格子は3本を任意に選定したものである

⑪−2−1 格-	子壁2P							
-100	40 (kN) 	50	100	150 200	250	300 350	400 (mm)	450
	-30		 		। । ।रु	1 1	I	
		1	1미 크	皇一変位阕				
		降伏耐力 Py	Pmax × 2/3	終局耐力 Pu·(0.2/Ds)	特定変位 1/120rad (23.75mm)	1/15rad (190mm)時 耐力	最大耐力	最大耐力時 変位
10-2-1 林	各子壁2P	18.4	18.9	6.6	5.7		28.4	178mm
1/450 1/300 1/200 1/150	<u>引き</u>							
1/100								
1/75								
1/50	西側縦受材 東側縦受材	t-土台 浮き t-土台 めり	き上がり 込み		東側縦受林 西側縦受林	オ-土台 浮き オ-土台 めり	き上がり 込み	
1/30	西側縦受材 (写真4参	た格子横を 照)	がめり込み	割れ入る	格子縦材に	2格子横材が	ぶめり込み割	れ入る
1/7最終	175mm 西 [;]	柱脚 Dホル	、付近で先行	破壊(写	真5参照)			
傾向	荷重が30kl 変形がある 強度に対し ⑪-1試験体 1/50radで	Nに近くにな 程度進んで て初期剛性 ぶに比べ、 [*] 9.8kNに対1	ると、Dボルトイ から格子材3 が低い して18.9kN、	守近に割裂 を点のめりi 174mmで1	が発生し、 た みが発生し 3.8kNに対し	主脚が先行破 ているので、 て28.4kNとほ	を壊した ほぼ倍の値と	なっている

⑪−2−1 格子壁2P



写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 (175mm)



写真3 1/30rad引の様子



写真4 試験終了時(175mm)



写真5 試験終了時(175mm)



写真6 試験終了時(175mm)



⑪−2−2 格-	子壁2P							
-100	40 (kN) 	50	100	150 200	250	300 350	400 (mm)	450
	-30	-	 荷重		۰ ج			-
		降伏耐力 Py	Pmax × 2/3	終局耐力 Pu·(0.2/Ds)	特定変位 1/120rad (23 75mm)	1/15rad (190mm)時 耐力	最大耐力	最大耐力時 変位
<u>10</u> -2-2 ‡	各子壁2P	16.8	19.2	7.4	5.6	28.8	29.7	215.5mm
		*()構造評	『価を1/15(19	0mm)までとし	た			
破壊状況	※柱脚割れ	<i>,</i> 留補強						
1/450	引き				押し			
1/300								
1/200								
1/150	西側縦受材	ー土台 浮き	き上がり					
1/100								
1/75					東側縦受材	すまた 浮き	と上がり	
1/50	格子材同士	にめり込み	が見られる					
1/30	格子縦材に (写真6参	格子横材が 照)	ぶめり込み割;	れ入る				
1/7最終	200mm 下 230mm 西 (写真3•4	受材浮く 注頭 Dホ [゙] ル 参照)	付近で先行	破壊(座金	のめり込みも	っ大きい)		
傾向	柱脚の割裂 格子組の挙 強度・剛性と	を抑える補 動は⑪-2- :も⑪-2-1詞	強を行ったか 1試験体と同 1験体に等し	^ジ 、柱頭でD 様で、強度 い	ボルト付近に こ対して初期	割裂が発生 別剛性が低い	し、230mmで	『破壊した

⑩−2−2 格子壁2P





写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 (230mm)



写真3 試験終了時 (230mm)



写真4 試験終了時 (230mm)



写真5 試験終了時 (230mm)



写真6 試験終了時 (230mm)



⑪−2−3 格-	子壁2P							
	40 (kN) 	50	100	150 200	250	300 350	400 (mm)	450
	-30	L		「」	۰ ح		1	
		1	1미 크	ᆮ ̄ 叐 [⊻ 屴]]				
		降伏耐力 Py	$Pmax \times 2/3$	終局耐力 Pu·(0.2/Ds)	特定変位 1/120rad (23.75mm)	1/15rad (190mm)時 耐力	最大耐力	最大耐力時 変位
10-2-3 4	格子壁2P	16.0	19.0	7.5	5.8	28.5	37.0	407mm
		*構造評価	を1/15(190mi	m)までとした				
破壊状況	<u>※柱脚 柱</u>	頭割れ留補	強		100.0			
1/450	引き				押し			
1/300								
1/200								
1 /150								
1/150								
1/100					東側縦受材	すー土台 浮き	生がり	
1775	四側縦受材	ー土台 浮き	ち上かり(写真	43 参照)				
1/50					格子縦材に	格子横材が	ぶめり込み割	れ入る
1/30	格子材の乾 縦格子材- 上受材 割	:燥割れから 下受材 隙間 れ	割れが広が 引	3				
1/7最終	190mm 下 265mm 上	受材割れ 受材裂け	各子材全体が	「面外に座版	函(写真4参)	照)		
傾向	柱脚・柱頭の 格子組の挙 強度・剛性と 265mm付近	の割裂を抑; 動は⑩-2 とも⑪-2-1詞 から格子組	える補強を行 1試験体と同 1験体に等し が少しづつ〕	ったことで、 様で、強度に い 面外に座屈	1/7rad(407) こ対して初期 _てくるが、7	mm)まで加ス 別剛性が低い 荷重は伸び約	カが行えた 、 売けている	

⑪−2−3 格子壁2P



写真1 設置状況



写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 試験終了時 1/7rad(407mm)



写真4 試験終了時 1/7rad(407mm)



写真5 試験終了時 1/7rad(407mm)



写真6 試験終了時 1/7rad(407mm)







写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 (350mm)



写真3 1/30rad引の様子



写真4 試験終了時 (350mm)



写真5 試験終了時 (350mm)



写真6 試験終了時 (350mm)





⑪ 格子壁2P+石膏ボード



写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 (270mm)



写真3 試験終了時全景 (190mm)



写真4 試験終了時(190mm)



写真5 試験終了時(190mm)



写真6 試験終了時(190mm)

⑪-1 横板張り W135・N50 大壁2P



※含水率は3箇所を測定した平均を示す ※横板は5本を任意に選定したものである



(12)−1 横板張り W135・N50 大壁2P



写真1 設置状況





写真3 1/100rad引の様子





写真4 1/150rad引の様子



①-2 横板張り W180・N50 大壁2P





12-2 横板張り W180・N50 大壁2P





写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 1/200rad引の様子



写真5 試験終了時 1/7rad(407mm)



写真4 1/200rad引の様子



12-3-1 横板張り W180・CN65 大壁2P



*横板は5枚を任意に選定したものである



12-3-1 横板張り W180・CN65 大壁2P



写真1 設置状況



写真3 1/300rad押し時の様子







写真4 1/300rad押し時の様子



①-3-2 横板張り W180・CN65 大壁2P



*横板は5本を任意に選定したものである



12-3-2 横板張り W180・CN65 大壁2P



写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 1/300rad引の様子



写真5 試験終了時 1/7rad(407mm)







①-3-3 横板張り W180・CN65 大壁2P





①-3-3 横板張り W180・CN65 大壁2P



写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 1/50rad引の様子



写真5 試験終了時 1/7rad(407mm)



写真4 1/30rad引の様子



①-4 横板張り W180・CN65 真壁2P



*横板は3本を任意に選定したものである



①-4 横板張り W180・CN65 真壁2P



写真1 設置状況





写真3 1/200rad引の様子



写真5 試験終了時 1/7rad(407mm)



写真4 1/200rad引の様子


13-1 栈下地+ラスボード9.5mm+漆喰7mm・GNF40 1P





(③-1 桟下地+ラスボート・9.5mm+漆喰7mm・GNF40 1P

写真1 設置状況





写真3 1/100引の様子



写真4 1/30引の様子



写真5 試験終了時 1/7rad(407mm)



写真6 解体時



①3-2 枝	戋下地+ラスボードフ	mm+漆喰14	4mm•GNF32	2P				
	20 (kN) 		100	150 200	250	300 350	400	450
							(mm)	-
			荷重	重一変位関係	系			
		降伏耐力 Py	Pmax × 2/3	終局耐力 Pu·(0.2/Ds)	特定変位 1/120rad (23.75mm)	1/15rad (190mm)時 耐力	最大耐力	最大耐力時 変位
⑬-2 桟下地+う	ラスボード7mm+漆喰14mm・GNF32 2P	10.7	11.6	8.3	17.0	2.1	17.4	28.4mm
		*構造評価	を1/15(190m)	m)までとした				
破壊状	況							
1 / 450	引き				押し	、生しっ		
1/300		上台隙間 梁隙間			東下漆喰- 西上漆喰-	土台隙間 梁隙間		
1/200	西下漆喰-ī 東上漆喰-ī	西下柱隙間 東上柱隙間						
1/150					西下漆喰日 東上漆喰日	E壊 E壊(写真3参	診照)	
1/100	東下漆喰圧 西柱頭-梁 西受材ラスホ (釘パンチンク (写真4参照	壊 隙間 ・ート・裏面-金 ・による膨らる 3)	「周辺で膨ら み−同時にボ	み ート 浮き)	西下漆喰大 東下漆喰上	こきく圧壊 上塗り中塗り1	亀裂	
1/75	東下漆喰と	ボードで圧壊	喪(写真5参照	R)	西側間柱上 (釘パンチンク	こ下ラスボートう 「による膨らる	裏面−釘周〕 み−同時にホ	辺で膨らみ デード浮き)
1/50	西上漆喰大 (写真5・6参	:きく面外座 診照)	屈+ひび割れ	L				
1/30					1c 69mmで	゙゙゚゙ボード+漆喰	:落下	
1/7最終	終 							
傾向	漆喰とラスホ ラスホート・の約 ラスホート・間 1/100rad 1 1/50rad漆	ードが一体と 迷目に施工さ]にずれが生 [7.4kN(28.4 『喰圧壊によ	なって回転「 されていたジ Eじていない。 4mm)でラスポ の急激に荷言	っている。 ョイントネット と考えられる ード釘のパン 重が低下す	ーにより ー ーチングによう	り除々に荷重	重低下	

⑭ー2 桟下地+ラスボード7mm+漆喰14mm・GNF32_2P







写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 1/150押の様子



写真4 1/75引の様子



写真5 1/50引の様子



写真6 1/50押の様子





13-3-1 桟	下地+ラスボート	╮ [•] 9.5mm+漆I	喰7mm∙GNF	40 2P				
	20 (kN) 	50	100	150 200	250	300 350	400 (mm)	- - 450 -
	-20	i i	 荷雪		 系	1	Ī	
		降伏耐力 Py	Pmax × 2/3	終局耐力 Pu·(0.2/Ds)	特定変位 1/120rad (23.75mm)	1/15rad (190mm)時 耐力	最大耐力	最大耐力時 変位
⑬-3-1 桟下地+ラスポード9	.5mm+漆喰7mm・GNF40 2P	7.3	10.2	8.1	14.6	2.8	15.3	14.4mm
破壊状況		* 構造評価 * 特定変位	を1/15(190mi 時の荷重はPr	n)までとした nax時の変位	の後に記録さ	れた		
1/450	<u> 5 さ</u> 西側下 漆	哈	Į		押し	哈	月 西側下河	太哈沙附問
1/300	東側上 漆	<u>像</u> −梁隙間	1]		来阅 一探	"民 上口你IP	1、四四二位	不吸 未际间
1/200	西側下 柱- 東側下 漆	-漆喰隙間(喰圧壊(写真	写真3参照) 〔3参照〕		西側下 漆 西側上隅 東側下 柱	喰圧壊(ホー 漆喰割れ −漆喰隙間	ドと伴に)	
1/150	東側下 漆	喰圧壊(ボー	ドと伴に)		西側下 漆 東側上 漆	喰圧壊 喰圧壊		
1/100					東柱 受材	ーラスホート、と降		
1/75					西側間柱 (釘パンチンク (写真4参照	フスボード裏症 ゙による膨ら。 {)	□−釘周辺で み−同時にホ	だらみ ごート・浮き)
1/50					東半分の漆 (写真6参照	1%喰が全体的 (注)	」に面外座原	
1/30								
1/7最終	105mm 東 ^ュ	半分の漆喰	が全体的にす	面外座屈				
傾向	漆喰とラスボ・ ラスボードの組 ラスボード間 1/200rad 1 1/75radでラ 最終サイクノ	ートが一体と *目に施工さ にずれが生 5.3kN(14.4 スホート・釘の レ1/7radでに	なって回転し されていたジ じていない。 Lmm)をピーク パンチングか は荷重が伸て	している。 ョイントネット と考えられる クに除々に が確認でき ずない	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	きい		

(1)-3-1 桟下地+ラスボード9.5mm+漆喰7mm・GNF40 2P

写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 1/200引の様子



写真4 1/75引の様子



写真5 1/50引の様子



写真6 1/50押の様子

13-3-2 桟下地+ラスボード9.5mm+漆喰7mm・GNF40 2P



①-3-2 桟	下地+ラスボー	ド9.5mm+漆	喰7mm∙GNF	40 2P				
 - 100 	(kN) 		100	150 200	250 3	300 350	400 (mm)	- - 450 -
		·	荷重	重一変位関係	系			
		降伏耐力 Py	Pmax × 2/3	終局耐力 Pu·(0.2/Ds)	特定変位 1/120rad (23.75mm)	1/15rad (190mm)時 耐力	最大耐力	最大耐力時 変位
⑬-3-2 栈下地+ラスポード9	5mm+漆喰7mm・GNF40 2P	9.0	10.3	7.4	14.8	7.7	15.4	19.0mm
<u>破壊状況</u> 1/450 1/300 1/200	<u>引き</u> 西側下 漆 東側上 漆 西側下 柱 東側下・西	*特定変位 喰-土台隙間 喰-梁隙間 -漆喰隙間(側上 漆喰匠)	時の荷重はPn 引 (写真3参照) E壊(ボートと	nax時の変位 伴に)	の後に記録さ 押し 東側下 漆! 西側上 漆! 東側上隅	れた 喰-土台隙間 喰-梁隙間 漆喰圧壊	E	
1/150	(写真3参照 東側上 柱 西柱縦受板	程 <u>)</u> −漆喰隙間 t ラスボード導	፤面−釘周辺 、	で膨らみ	西側下 漆: 東側上 漆: 東側下 柱-	喰圧壊 喰圧壊 (ボー ー漆喰隙間	ト と伴に)	
1/75	(釘パンチンク 東西柱縦受 (釘パンチンク (写真4参照)	ドによる膨ら。 を材 ラスボート ドによる膨ら。	み-同時にボ 、裏面-釘周 み-同時にボ	ート「浮き) 辺で膨らみ ート「浮き)				
1/50		· ·						
1/30	漆喰の東西	すがホートと伴	に(釘パンチン	ク)膨らむ	漆喰-東ボー (写真6参照	-ド継目(3× ミ)	6、3×3)で	座屈
1/7最終	155mm 漆 335mm 済 370mm 済 403mm 西	喰-西ボート) 泰喰-西上 ; 泰喰-西上 ; 柱脚 Dボル	継目 (3×6、3 縦に割裂・座 縦に割裂・座 ト付近割裂(2	3×3)で座店 E屈(写真2参 E屈(写真2参 写真2参照)	i ≽照) ◇照)			
[頃] 印]	13 ⁻ ¹ 限とフノホ ラスホートの ラスホート間 1/150rad 1/100radで	ートルー14と 継目に施工さ 引にずれが生 15.4kN(19.0 ラスボード釘の	ション (回転し されていたジ こじていないと Dmm)をピーク Dパンチング	ン いる。 ョイントネット と考えられる クに除々に が確認でき ^っ	により 1/30radより 苛重低下 苛重低下もナ	り継目を境に 大きい	ニ座屈してい	る



写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 1/150引の様子



写真5 1/30押の様子



写真4 1/75引の様子



写真6 1/30押の様子

13-3-3 栈下地+ラスボード9.5mm+漆喰7mm・GNF40 2P







写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 1/100引の様子



写真4 1/50引の様子



写真5 1/50押の様子



写真6 1/30押の様子





①→4 貫下地+ラスボード9.5mm+漆喰7mm・GNF40 2P



写真1 設置状況

写真2 試験終了時全景 1/7rad(407mm)



写真3 1/100押の様子



写真4 1/75引の様子



写真5 1/75引の様子



写真6 1/75押の様子

2.構面の静的加力実験

2. 1試験体

構面試験体は、幅 5460mm(6P 1P=910mm)、高さ 3090mm(柱長さ)で、桁・柱・差し鴨居、 足固めで構成し、垂れ壁部に土壁を配した伝統的木造壁体とした。

試験体は足固めをアンカーボルト(M16)で固定する A タイプと、柱下端部にストッパーを配し アンカーボルトによる上下方向の拘束を行わない B タイプの2種類とし、A タイプ2体、B タイ プ4体の合計6体である。試験体を構成する木材は、スギを用い、込み栓、鼻栓、車知栓はカシ を用いた。試験体図を図1に、試験体材料仕様を

表1に示す。また試験体状況を写真1、写真2に示す。



構面試験体A(2体)

構面試験体B (4体)



	部材	寸法・規格・樹種等
	桁	H240×150 無等級材 樹種:スギ(福島県産)
事中《日	柱	H150×150 無等級材 樹種:スギ(福島県産)
甲田术日	差し鴨居	H240×120 無等級材 樹種:スギ(福島県産)
	足固め	H180×120 無等級材 樹種:スギ(福島県産)

表 1 試験体を構成する軸組の仕様



写真 1 試験体(軸組)



写真 2 試験体(土壁乾燥後)

2. 2加力

反力床上に設置した鋼製の基礎フレームに試験体を設置した。Aタイプはボルトで足固めを固 定、Bタイプは柱下端部にストッパーを配し水平方向の移動を拘束した。試験は載荷式とし、試 験体両端に 500kg(長さ 2280mm 幅 300mm 厚さ 100mm 材質:鉄)のおもりを設置し、 桁に埋め込んだボルトで固定した。

この状態で桁の端部に油圧アクチュエータ先端とプレートを配し、両端を M20 ボルト 4 本で 挟むことで試験体に繰り返しの水平力を加えた。加力装置及び変位計測定状況を図 2 に、試験体 の加力装置への設置状況を写真 3 に示す。なおアクチュエーターが引きの方向を「正」とした。



図 2 加力装置



写真 3 加力装置設置状況

加力は、正負繰り返し加力と平成20年1月に建築研究所と防災科学技術研究所の共同研究で

実施された伝統的木造壁体の振動実験で得られた試験体頂部の応答変位で時間軸を200倍にした 加力の2種類とした。

正負繰り返し加力は、見かけの変形で制御し(見かけの変形角は、水平変位を柱長さ3090mm で除した値とした。(2.4 参照)) ±1/450(rad.)[6.9mm]、±1/300(rad.)[10.3mm]、

 $\pm 1/200(rad.)[15.5mm], \pm 1/150(rad.)[20.6mm], \pm 1/100(rad.)[30.9mm], \pm 1/75(rad.)[41.2mm], \\ \pm 1/50(rad.)[61.8mm], \pm 1/30(rad.)[103.0mm], \pm 1/20(rad.)[154.5mm],$

±1/15(rad.)[206mm]、±1/10(rad.)[309mm]、±1/7.5(rad.)[412mm]変形時で正負3階繰り返 しを行った。加力速度は2.0(mm/min)とし、アクチュエータの引き側から加力を始めた。繰り返 し加力スケジュールを図3、表2に示す。



図 3 繰り返し加力スケジュール

目標変位(mm)	変形角(rad.)		1回目	2回目	3回目
6.9	1/ 450	正/負			
10.3	1/ 300	正/負			
15.5	1/ 200	正/負			
20.6	1/ 150	正/負			
30.9	1/ 100	正/負			
41.2	1/75	正/負			
61.8	1/50	正/負			
103.0	1/ 30	正/負			
154.5	1/ 20	正/負			
206.0	1/15	正/負			
309.0	1/ 10	正/負			
412.0	1/ 7.5	正/負			

表 2 繰り返し加力スケジュール

振動台応答変位で時間軸を 200 倍にした加力は、図 4 で示す 2 つの振動実験で得られた応答変位の主要応答部(赤線内)を足し合わせ、時間軸を 200 倍としたものを基本とした。(図 5)

JMA KOBE NS 100% W=2ton

400 300 200 100 変位 (mm) 0 -100 -200 -300 -400 5 10 15 20 25 30 0 時間(sec) JMA KOBE NS 100% W=3ton 400 300 200 100 変位 (mm) 0 -100 -200 -300 -400 0 5 20 10 15 25 30 時間(sec)

図 4 振動実験で得られた応答変位

JMA KOBE NS 100% W=2ton, 3ton 応答 時間軸200倍



図 5 振動実験での主要応答変位(時間軸 200 倍)

実際の加力は、**図5**で示された応答変位のピークを結ぶ直線で補間したもので加力を実施した。 応答変位曲線と直線補間での加力の比較を**図6**に示す。



JMA KOBE NS 100% W=2ton, 3ton 応答 時間軸200倍

図 6 振動実験の応答変位と直線補間した加力の比較

(青線:応答変位 赤線:直線補間応答変位)

		14月1(4小)	亦(古()	移動時間	速度
		时间(秒)	変位(mm)	(秒)	(mm/sec)
0	0	0	0.0		
1	1	48	0.4	10	0.04
2	2	96	-38.9	48	-0.82
3	3	120	22.4	24	2.55
4	4	152	112.1	32	2.80
5	5	184	-20.3	32	-4.14
6	6	216	-99.6	32	-2.48
7	7	288	8.3	72	1.50
8	8	328	153.1	40	3.62
9	9	400	-138.3	72	-4.05
10	1	472	116.3	72	3.54
11	2	552	-113.2	80	-2.87
12	3	632	91.4	80	2.56
13	4	672	40.8	40	-1.27
14	5	704	86.1	32	1.42

表 3 振動実験で得られた応答変位の時間軸を 200 倍し、 ピークを直線補間した加力スケジュール

次ページへ続く

		11-11日(イル)		移動時間	速度
		時間(秒)	変位(mm)	(秒)	(mm/sec)
16	7	880	141.2	72	3.58
17	8	952	-125.3	72	-3.70
18	9	1024	135.7	72	3.62
19	1	1088	-100.2	64	-3.69
20	2	1176	138.3	88	2.71
21	3	1256	-138.0	80	-3.45
22	4	1336	138.6	80	3.46
23	5	1424	-87.2	88	-2.57
24	6	1504	72.4	80	2.00
25	7	1632	-43.2	128	-0.90
26	8	1720	38.8	88	0.93
27	9	1792	0.0	72	-0.54
28	1	1820	0.0	28	0.00
29	2	1920	0.1	10	0.01
30	3	2000	55.2	80	0.69
31	4	2064	-132.7	64	-2.94
32	5	2176	224.8	112	3.19
33	6	2272	-346.4	96	-5.95
34	7	2488	177.3	216	2.42
35	8	2562	70.2	74	-1.45
36	9	2672	-294.6	110	-3.32
37	1	2744	0.0	72	4.09
38	2	2840	152.8	96	1.59
39	3	2952	-159.7	112	-2.79
40	4	2984	-138.0	32	0.68
41	5	3088	-181.7	104	-0.42
42	6	3200	95.0	112	2.47
43	7	3240	114.7	40	0.49
44	8	3400	-88.0	160	-1.27
45	9	3456	-92.6	56	-0.08
46	10	3600	43.2	144	0.94
47	11	3720	0.0	120	-0.36

2.3変位・ひずみ・荷重測定位置

変位・ひずみ・荷重測定は**図7、図8**に示すセンサー取付け位置図に基づき、表4に示すリストに従った。ただしアンカーボルトのひずみ及びアンカーボルト引張荷重は、柱端部固定のタイプAでは省略した。また柱の曲げひずみ測定は、正負繰り返し加力1体目(試験体記号A-1、B-1)のみすべてのひずみを測定したが、2体目以降は、差し鴨居部の柱の曲げひずみのみの 測定とした。表5に試験体形状と測定点の関係を示す。



図 7 センサー取付け位置図





表 4 センサー取付け位置リスト

				Х	Н																
No.		センサータク		座標	(m)	測定種類	測定種類2	測定構面	方向	変位計	ターケット	極性		容量		出力			係数		形式
0	1	LOAD	アカチュエータ荷重							設置位置			+	10	V	25000	kaf	_	0	2500	
1	2	DISP	アクチュエータ亦位										+	10	v	25000	Kg1	_	0.	0050	
2	1	D=X1=1	北井 絶対変位	1 00	3.57	恋位	絶対		南北	不動占	桁	非+	+	500 mm	,	2500	micro	+		0.200	リイヤー
3	2	D-X1-2	北柱 絶対変位	1.00	2 60	恋位	施対		南北	不動占	胞民	3F+	+	500 mm		2500	micro	_		0.200	0 <i>4†</i> -
4	3	D-X1-3	北柱 絶対変位	1.00	1.40	変位	絶対		南北	不動点	柱	dk+	±	250 mm		2500	micro	-	(0.100	ワイヤー
5	4	D-X1-4	北柱 絶対変位	1.00	0.30	変位	絶対		南北	不動点	柱	dk+	±	250 mm		2500	micro	-	(0.100	ワイヤー
6	5	D-X2-1	中柱 絶対変位	2,00	3, 57	変位	絶対		南北	不動点	桁	北+	±	500 mm		2500	micro	+	(0,200	9 74-
7	6	D-X2-2	中柱 絶対変位	2.00	2.59	変位	絶対		南北	不動点	鴨居	北+	±	500 mm		2500	micro	+	(0.200	ワイヤー
8	7	D-X2-3	中柱 絶対変位	2.00	1.37	変位	絶対		南北	不動点	柱	北+	±	250 mm		2500	micro	+	(0.100	ワイヤー
9	8	D-X2-4	中柱 絶対変位	2.00	0.30	変位	絶対		南北	不動点	柱	北+	±	250 mm		2500	micro	+	(0.100	ワイヤー
10	9	D-X3Y1	南柱 絶対変位	3.00	0.30	変位	絶対		南北	不動点	桁	北+	±	500 mm		2500	micro	+	(0.200	ワイヤー
11	10	D-X3Y2	南柱 絶対変位	3.00	0.30	変位	絶対		南北	不動点	鴨居	北+	±	500 mm		2500	micro	+	(0.200	ワイヤー
12	11	D-X3Y3	南柱 絶対変位	3.00	0.30	変位	絶対		南北	不動点	柱	北+	±	250 mm		2500	micro	+	(0.100	ワイヤー
13	12	D-X3Y4	南柱 絶対変位	3.00	0.30	変位	絶対		南北	不動点	柱	北+	±	250 mm		2500	micro	+	(0.100	ワイヤー
14	1	RD-S-X1-1	南構面 北鴨居 相対変位	1.00	2.70	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
15	2	RD-S-X1-2	南構面 北鴨居 相対変位	1.00	2.50	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
16	3	RD-S-X2-1	南構面 中央鴨居 相対変位	1.90	2.70	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
17	4	RD-S-X2-2	南構面 中央鴨居 相対変位	1.90	2.50	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
18	5	RD-S-X2-3	南構面 中央鴨居 相対変位	2.10	2.70	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
19	6	RD-S-X2-4	南構面 中央鴨居 相対変位	2.10	2.50	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
20	7	RD-S-X3-1	南檮面 南鴨居 相対変位	3.00	2.70	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
21	8	RD-S-X3-2	南檮面 南鴨居 相対変位	3.00	2.50	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
22	9	RD-S-X1-1	南構面 北足固 相対変位	1.00	2.70	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	ŧ	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
23	10	RD-S-X1-2	南檮面 北足固 相対変位	1.00	2.50	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
24	11	RD-S-X2-1	南構面 中央足固 相対変位	1.90	2.70	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	\pm	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
25	12	RD-S-X2-2	南構面 中央足固 相対変位	1.90	2.50	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	\pm	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
26	13	RD-S-X2-3	南構面 中央足固 相対変位	2.10	2.70	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	\pm	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
27	14	RD-S-X2-4	南構面 中央足固 相対変位	2.10	2.50	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
28	15	RD-S-X3-1	南檮面 南足固 相対変位	3.00	2.70	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
29	16	RD-S-X3-2	南構面 南足固 相対変位	3.00	2.50	変位	相対		南北	鴨居	柱	離れる +	±	50 mm		2500	micro	+	(0.020	歪ゲージ式
30	1		北柱(北) ひずみ測定	1.00	3.10	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
31	2		北柱(南) ひずみ測定	1.00	3.10	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
32	3		北柱(北) ひずみ測定	1.00	2.70	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
33	4		北柱(南) ひずみ測定	1.00	2.70	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
34	5		北柱(北) ひずみ測定	1.00	2.50	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
35	6		北柱(南) ひずみ測定	1.00	2.50	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
36	7		北柱(北) ひずみ測定	1.00	0.40	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
37	8		北柱(南) ひずみ測定	1.00	0.40	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
38	9		北柱(北) ひずみ測定	1.00	0.30	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
39	10		北柱(南) ひずみ測定	1.00	0.30	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
40	11		中央柱(北) ひずみ測定	2.00	3.10	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
41	12		中央柱(南) ひずみ測定	2.00	3.10	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
42	13		中央柱(北) ひずみ測定	2.00	2.70	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
43	14		中央柱(南) ひずみ測定	2.00	2.70	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
44	15		中央柱(北) ひずみ測定	2.00	2.50	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
45	16		中央柱(南) ひずみ測定	2.00	2.50	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
46	17		中央柱(北) ひずみ測定	2.00	0.40	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
47	18		中央柱(南) ひずみ測定	2.00	0.40	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
48	19		中央柱(北) ひずみ測定	2.00	0.30	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
49	20		中央柱(南) ひずみ測定	2.00	0.30	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
50	21		南柱(北) ひずみ測定	3.00	3.10	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
51	22		南柱(南) ひずみ測定	3.00	3.10	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
52	23		南柱(北) ひずみ測定	3.00	2.70	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
53	24		南柱(南) ひずみ測定	3.00	2.70	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
54	25		南柱(北) ひずみ測定	3.00	2.50	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
55	26		南柱(南) ひずみ測定	3.00	2.50	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
56	27		南柱(北) ひずみ測定	3.00	0.40	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
57	28		南柱(南) ひずみ測定	3.00	0.40	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
58	29		南柱(北) ひずみ測定	3.00	0.30	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
59	30		南柱(南) ひずみ測定	3.00	0.30	ひずみ	柱				柱									1.00	1ゲージ 3線
60	1	-	土壁 北-東側 北	1.50	2.30	ひずみ	土壁				土壁									1.00	1ゲージ 3線
61	2		土壁 北-東側 南	1.50	2.30	ひずみ	土壁				土壁									1.00	1ゲージ 3線
62	3		土壁 北-西側 北	1.50	2.30	ひずみ	土壁				土壁									1.00	1ゲージ 3線
63	4		土壁 北-西側 南	1.50	2.30	ひずみ	土壁				土壁									1.00	1ゲージ 3線
64	5		土壁 南-東側 北	2.50	2.30	ひずみ	土壁				土壁									1.00	1ゲージ 3線
65	6		土壁 南-東側 南	2.50	2.30	ひずみ	土壁				土壁									1.00	1ゲージ 3線
66	7		土壁 南-西側 北	2.50	2.30	ひずみ	土壁				土壁									1.00	1ゲージ 3線
67	8		土壁 南-西側 南	2.50	2.30	ひずみ	土壁				土壁									1.00	1ゲージ 3線
68	1		アンカーホールト 単軸	1.00	0.30	ひずみ	アンカーホールト				アンカーボルト									1.00	1ゲージ 3線
69	2		アンカーホールト 単軸	1.00	0.30	ひずみ	アンカーホ゛ルト				アンカーボルト									1.00	1ゲージ 3線
70	3		アンカーホールト 単軸	1.90	0.30	ひずみ	アンカーホ゛ルト				アンカーボルト									1.00	1ゲージ 3線
71	4		アンカーホールト 単軸	1.90	0.30	ひずみ	アンカーホ゛ルト				アンカーボルト									1.00	1ゲージ 3線
72	5		アンカーボルト 単軸	2.10	0.30	ひずみ	アンカーホ゛ルト				アンカーボルト									1.00	1ゲージ 3線
73	6		アンカーボルト 単軸	2.10	0.30	ひずみ	アンカーホールト				アンカーボールト									1.00	1ゲージ 3線
74	7		アンカーボルト 単軸	3.00	0.30	ひずみ	アンカーホ゛ルト				アンカーボルト									1.00	1ゲージ 3線
75	8		アンカーボルト 単軸	3.00	0.30	ひずみ	アンカーボルト				アンカーボルト									1.00	1ゲージ 3線
76	1		センターホール型荷重計3										±	10000 kgf		3140	micro		3.	1847	歪ゲージ式
77	2		センターホール型荷重計4										±	10000 kgf		3140	micro		3.	1847	歪ゲージ式
78	3		センターホール型荷重計5										±	10000 kgf		3140	micro		3.	1847	歪ゲージ式

	試験 (ボル	体 A ト 無 し)	試験体 B (足固めボルト固定)					
	正負繰り	返し加力	正負繰り	返し加力	応答変位加力			
	A-1	A-2	B-1	B-2	B-3	B-4		
絶対変位 相対変位(差し鴨居) 相対変位(足固め)	12 8 8	12 8 8	12 8 8	12 8 8	12 8 8	12 8 8		
差し鴨居ひずみ 足固めひずみ 土壁ひずみ アンカーひずみ 土壁ひずみ	12 12 8 8	12 8 8	12 8 8	12 12 8 4(x2) 8	12 8 4(x2) 8	12 8 4(x2) 8		
ボルト荷重			3	3	3	3		
測定点合計	68	56	59	75	63	63		

表 5 試験体形状と測定点数

備 考 差し鴨居、足固め、土壁のひずみは、ポリエステル箔ゲージ PFL-30-11-5L((株) 東京測器研究所)を用いた。アンカーボルトのひずみは一般ゲージ FLA-3-11-3LT ((株)東京測器研究所)を用いた。

2.4変形、変形角の算定

実験データから見掛けの変形 $\delta_{apparent}(mm)$ 、見掛けの変形角 γ (rad.)を式 1により求める。

$$\delta_{apparent} = ch1$$

 $\gamma = \frac{ch1}{H}$

式 1

ここで ch1:桁水平変位(mm)

H :標点高さ(=3090mm) 標点高さは柱長さとした。

2.5降伏耐力・終局耐力等の算出方法

得られた荷重-変形曲線(見掛けの変形)より、指定性能評価機関業務方法書に従い、表 6の 4つの指標となる耐力を算出する。(図 9参照)



表 6 短期基準せん断耐力算出のための4つの指標

図 9 降伏耐力 Py、剛性 K及び終局耐力 Pu 算出方法

なお柱水平変位、柱曲げひずみ、土壁ひずみ、アンカーボルトひずみなどのデータは、依頼者 との協議の結果、測定結果のデジタルファイルの提出のみとし、試験成績書には結果を記載しな いこととした。

2.6 試験結果

2. 6. 1 Aタイプ(柱端部ストッパー固定)正負繰り返し 試験結果

Aタイプ正負繰り返しの試験結果を表7に、荷重-変位曲線を図10、図11に示す。試験実施 状況及び破壊状況を写真4~写真9に示す。

		A-1	(2008/06/11)	A-2	(2008/06/11)
		正側	負側	平均	正側	負側	平均
\bigcirc	Py(kN)	9.65	-10.46	10.06	8.77	-6.92	7.85
	Dy(mm)	52.58	-69.8	61.19	45.66	-28.70	37.18
	K(kN/cm)	1.84	1.5	1.67	1.92	2.41	2.17
	Pu(kN)	13.9	-13.66	13.78	13.30	-11.83	12.57
	Du(mm)	402.34	-376.79	389.57	391.69	-372.91	382.30
	μ	5.31	4.13	4.72	5.66	7.60	6.63
	1/√(2 µ -1)	0.322	0.371	0.35	0.31	0.27	0.29
2	0.2Pu√(2 μ -1)	8.6335	-7.3639	8.00	8.55	-8.93	8.74
3	2/3Pmax(kN)	10.18	-10.22	10.20	9.71	-9.13	9.42
	Pmax(kN)	15.27	-15.33	15.30	14.56	-13.70	14.13
	P1/300(kN)	3.41	-3.51	3.46	3.67	-4.11	3.89
	P1/200(kN)	4.71	-4.76	4.74	4.35	-4.69	4.52
	P1/150(kN)	4.56	-5.34	4.95	5.91	-5.46	5.69
4	P1/120(kN)	<u>5.81</u>	<u>-5.13</u>	5.47	<u>6.81</u>	<u>-5.68</u>	6.25
	P1/60(kN)	9.21	-9.11	9.16	9.68	-8.31	9.00
	Pa(kN)	5.81	-5.13	5.47	6.81	-5.68	6.25
	L(m)	5.46	5.46	5.46	5.46	5.46	5.46
	相当倍率*1	0.54	-0.48	0.51	0.64	-0.53	0.58

表 7 Aタイプ 試験結果

*1:相当壁倍率は、低減係数αを1.0と仮定して算出した値

下線部:壁倍率業務方法書で規定する①から④の4つの指標のうち、最小値を下線で示す。



2. 6. 2 Bタイプ(足固めアンカーボルト固定)正負繰り返し 試験結果

Bタイプ正負繰り返しの試験結果を表8に、荷重一変位曲線を図12、図13に示す。試験実施 状況及び破壊状況を写真10~写真15に示す。

		B-1	(2008/06/10)	B-2 (2008/06/12)				
		正側	負側	平均	正側	負側	平均		
\bigcirc	Py(kN)	10.76	-10.72	10.74	9.83	-10.27	10.05		
	Dy(mm)	52.57	-57.28	54.93	57.56	-47.97	52.77		
	K(kN/cm)	2.05	1.87	1.96	1.71	2.14	1.93		
	Pu(kN)	15.44	-14.57	15.01	15.08	-15.07	15.08		
	Du(mm)	343.04	-290.34	316.69	394.92	-390.88	392.90		
	μ	4.55	3.73	4.14	4.47	5.55	5.01		
	1/√(2 µ -1)	0.35	0.39	0.37	0.355	0.315	0.34		
2	0.2Pu√(2 μ -1)	8.77	-7.40	8.08	8.4958	-9.5683	9.03		
3	2/3Pmax(kN)	11.33	-10.88	11.11	10.94	-11.23	11.09		
	Pmax(kN)	17.00	-16.32	16.66	16.41	-16.85	16.63		
	P1/300(kN)	4.06	-4.11	4.09	3.11	-3.47	3.29		
	P1/200(kN)	4.03	-5.37	4.70	4.49	-4.56	4.53		
	P1/150(kN)	5.36	-5.75	5.56	6.07	-5.11	5.59		
4	P1/120(kN)	<u>6.44</u>	<u>-6.41</u>	<u>6.43</u>	<u>6.94</u>	<u>-7.28</u>	7.11		
	P1/60(kN)	10.40	-10.03	10.22	9.17	-10.84	10.01		
	Pa(kN)	6.44	-6.41	6.43	6.94	-7.28	7.11		
	L(m)	5.46	5.46	5.46	5.46	5.46	5.46		
	相当倍率*1	0.60	-0.60	0.60	0.65	-0.68	0.66		

表8 Bタイプ 試験結果

*1:相当壁倍率は、低減係数 α を 1.0 と仮定して算出した値

下線部:壁倍率業務方法書で規定する①から④の4つの指標のうち、最小値を下線で示す。



図 12 荷重一変位曲線(試験体 B-1)





2.6.3 Bタイプ(足固めアンカーボルト固定)応答変位加力 試験結果

Bタイプ正負繰り返しの試験結果を表 9 に、荷重一変位曲線を図 14、図 15 に示す。試験実施 状況及び破壊状況を写真 16~写真 18 に示す。

		B-3	(2008/06/13))	B-4	(2008/06/16)
		正側	負側	平均	正側	負側	平均
\bigcirc	Py(kN)	10.99	-8.62	9.81	9.62	-8.63	9.13
	Dy(mm)	63.66	-33.73	48.70	54.11	-39.61	46.86
	K(kN/cm)	1.73	2.56	2.15	1.78	2.18	1.98
	Pu(kN)	15.77	-15.32	15.55	14.77	-14.43	14.60
	Du(mm)	483.90	-369.31	426.61	448.4	-378.67	413.54
	μ	5.30	6.16	5.73	5.4	5.72	5.56
	1/√(2 µ -1)	0.32	0.30	0.31	0.32	0.309	0.31
2	0.2Pu√(2 μ -1)	9.76	-10.32	10.04	9.2313	-9.3398	9.29
3	2/3Pmax(kN)	11.66	-11.68	11.67	10.57	-10.87	10.72
	Pmax(kN)	17.49	-17.51	17.50	15.85	-16.31	16.08
	P1/300(kN)	3.69	-4.24	3.97	3.56	-4.48	4.02
	P1/200(kN)	4.84	-3.99	4.42	4.61	-5.51	5.06
	P1/150(kN)	6.09	-6.64	6.37	5.35	-6.58	5.97
4	P1/120(kN)	<u>6.74</u>	<u>-7.43</u>	<u>7.09</u>	<u>6.33</u>	<u>-7.15</u>	<u>6.74</u>
	P1/60(kN)	9.78	-10.37	10.08	9.42	-9.73	9.58
	Pa(kN)	6.74	-7.43	7.09	6.33	-7.15	6.74
	L(m)	5.46	5.46	5.46	5.46	5.46	5.46
	相当倍率*1	0.63	-0.69	0.66	0.59	-0.67	0.63

表 9 Bタイプ 応答変位加力 試験結果

*1:相当壁倍率は、低減係数 α を 1.0 と仮定して算出した値

下線部:壁倍率業務方法書で規定する①から④の4つの指標のうち、最小値を下線で示す。



図 15 荷重-変位曲線 (試験体 B-2 応答変位加力)





試験前



1/50rad 変形時



1/50rad 変形時



1/30rad 変形時



1/30rad 変形時

写真 4 ボルト固定なし(A-1)試験体 試験状況


1/20rad 変形時



1/20rad 変形時



1/15rad 変形時



1/15rad 変形時



1/10rad 変形時

1/10rad 変形時

写真 5 ボルト固定なし(A-1)試験体 試験状況 その2





1/7.5rad 変形時





試験終了時



試験終了時







写真 6 ボルト固定なし(A-1) 試験体 試験状況 その3









1/50rad 変形時



1/50rad 変形時



1/30rad 変形時



1/30rad 変形時

写真 7 ボルト固定なし(A-2)試験体 試験状況





1/20rad 変形時



1/15rad 変形時



1/15rad 変形時



1/10rad 変形時



1/10rad 変形時

写真 8 ボルト固定なし(A-2)試験体 試験状況 その2





1/7.5rad 変形時

1/7.5rad 変形時



試験終了時



試験終了時



試験終了時



試験終了時

写真 9 ボルト固定なし(A-2)試験体 試験状況 その3





試験前





1/50rad 変形時



1/50rad 変形時



1/30rad 変形時



1/30rad 変形時

写真 10 ボルト固定(B-1)試験体 試験状況



1/20rad 変形時



1/20rad 変形時



1/15rad 変形時



1/15rad 変形時



1/10rad 変形時



1/10rad 変形時

写真 11 ボルト固定(B-1)試験体 試験状況 その2





1/7.5rad 変形時

1/7.5rad 変形時



試験終了時



試験終了時



試験終了時



試験終了時

写真 12 ボルト固定(B-1)試験体 試験状況 その3







1/50rad 変形時



1/50rad 変形時



1/30rad 変形時



1/30rad 変形時

写真 13 ボルト固定(B-2)試験体 試験状況





1/20rad 変形時



1/20rad 変形時

1/15rad 変形時



1/15rad 変形時



1/10rad 変形時



1/10rad 変形時

写真 14 ボルト固定(B-2)試験体 試験状況 その2





1/7.5rad 変形時



1/7.5rad 変形時

試験終了時



試験終了時



試験終了時



試験終了時

写真 15 ボルト固定(B-2)試験体 試験状況 その3





最大変形時



最小変形

試験終了時



試験終了時



試験終了時

写真 16 ボルト固定(B-3)試験体 地震応答波形入力

試験状況(JMA KOBE NS100% 2ton)





最大変形時



最小変形



試験終了時



試験終了時



試験終了時

写真 17 ボルト固定(B-3)試験体 地震応答波形入力

試験状況(JMA KOBE NS100% 3ton)











最小変形





試験終了時



試験終了時

写真 18 ボルト固定(B-4)試験体 地震応答波形入力

試験状況(JMA KOBE NS100% 2ton)